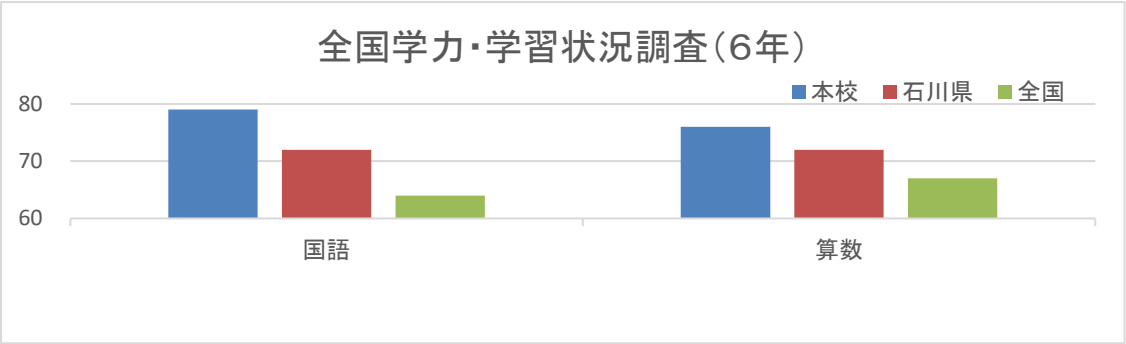
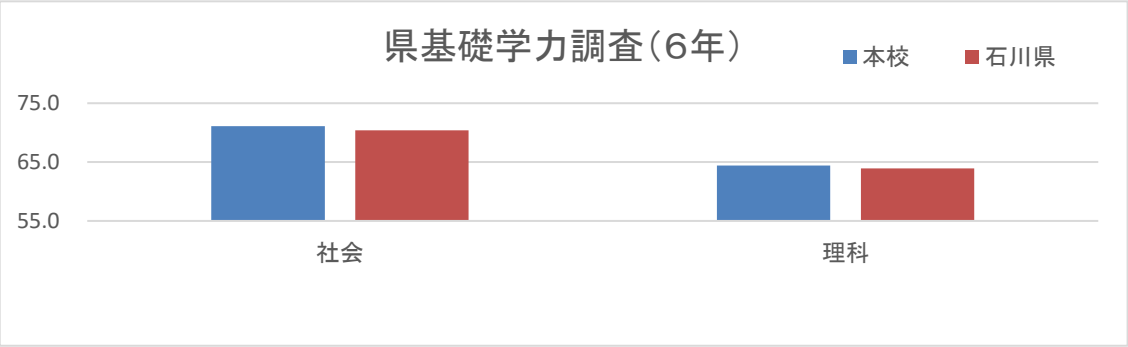
令和元年度　全国学力・学習状況調査（6年）結果



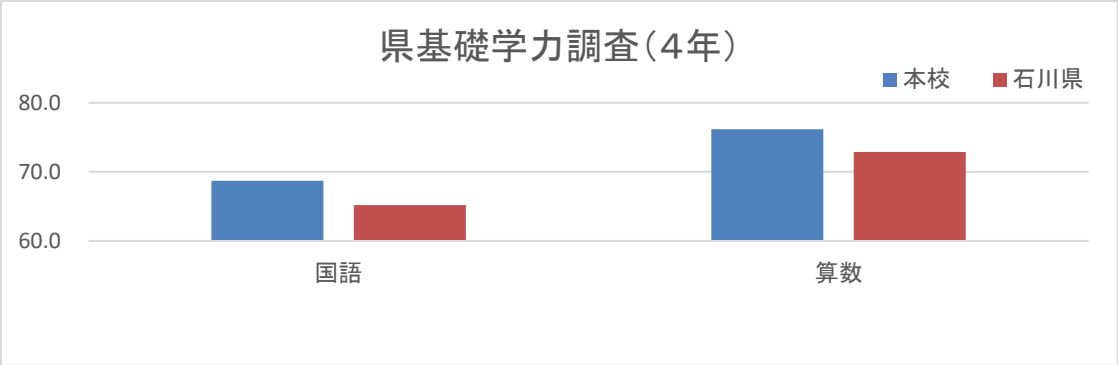
◯ 国語では，全国2位の石川県を7.3%上回った。
◯ 条件作文に関する設問では，2問とも石川県の平均を10%以上上回った。
▲ 同音異義語の漢字の使い分けや複文を単文に分けて書き直す設問では，県平均を下回ったので，授業や帯タイムを活用して意識的・継続的に定着を図る。
◯ 算数では全国1位の石川県を4.8%上回った。
◯ 計算の順序や工夫して計算するなどの数処理の設問で，県平均を10%以上上回った。
▲ 式の意味を説明させる設問で，県平均を下回ったので，学年に応じて算数用語を用いて式や図の説明をさせていく。

令和元年度　県基礎学力調査（6年）



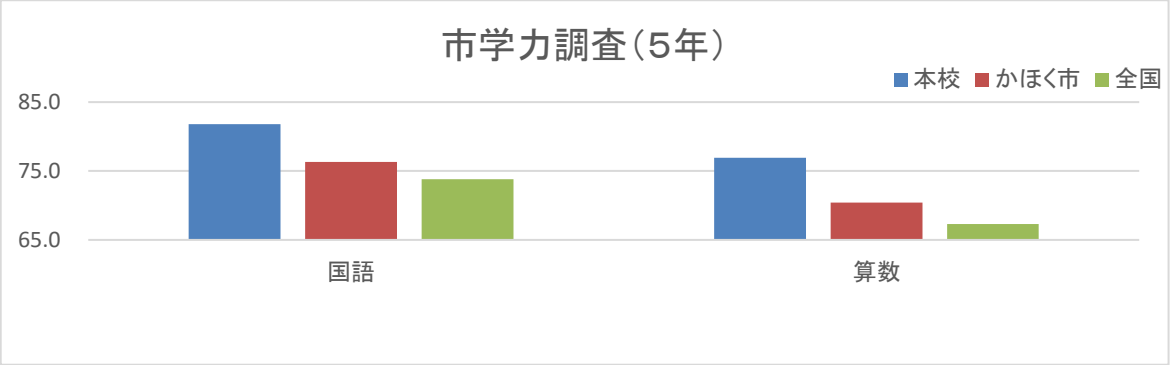
◯ 社会では，やや県平均を上回った。
◯ 特に，県の課題である「学習問題の設定」においての正答率が高かった。
▲ 一方，自動車の「生産工程」「関連工場の仕事」では，正答率が低かった。
単に知識を暗記するのではなく，多面的に事物を捉えることで構造的な理解につなげていく。
◯ 理科でも，やや県平均を上回った。
◯ 県の課題である「閉じ込めた空気の体積変化」において大きく上回った。
▲ 「雲の量から天気を答える」設問では，正答率が低かった。
教室での学びを生活での気づきにつながるように，児童の好奇心を喚起していく。

令和元年度　県基礎学力調査（4年）



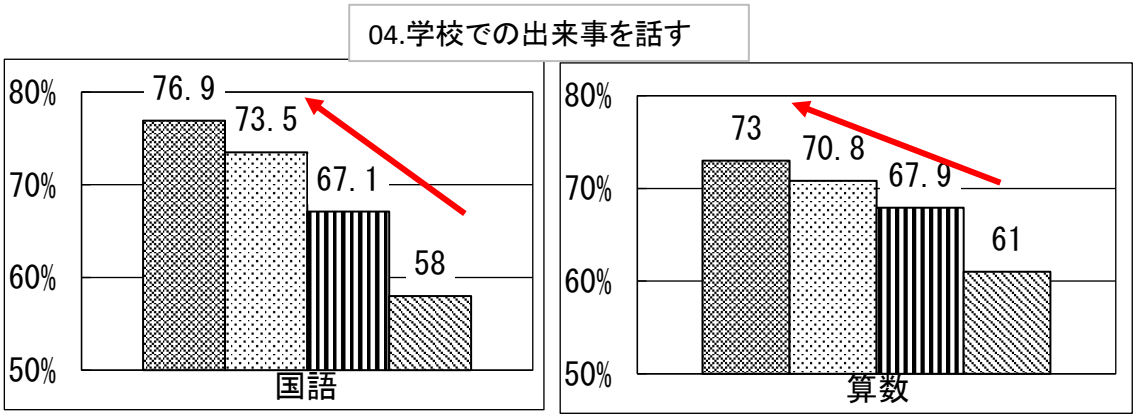
◯ 4年生の学力調査の正答率は，国語科も算数科も県平均を上回った。
◯ 国語では，前年度低かったローマ字の読みに改善が見られた。
▲ 修飾・被修飾の関係はまだ理解できていない児童が残っている。
学年を問わず，文の構造に目を向ける場面を設定していく。
◯ 算数では，県の課題である「分数の意味と表し方」や「グラフの読み取り」において，県平均を大きく上回った。
▲ 「二つの数量の倍関係」を図示する問題に課題が見られる。
条件を指定して説明させたり，必要な情報を取捨選択して説明させたりして，説明に必要な情報について理解を深めていく。

令和元年度　市学力調査（5年）



◯ 5年の国語・算数においても，かほく市・全国ともに大きく上回った。
◯ 国語では，「修飾語」や「条件作文」において，全国平均を大きく上回った。
▲ 送り仮名が必要な漢字の書き取りで下回ったので，小テストの実施等で定着度を確認する。
◯ 算数では，除法の計算の工夫をはじめほとんどの設問で，全国平均を大きく上回った。
▲ 身近にあるもののおよその面積が理解できていない児童がいるので，量感覚を身に付けられるよう学習内容と生活経験を結び付けていく。

令和元年度　全国学力・学習状況調査（6年　児童質問紙ー教科）結果



「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」という質問に対して「している」「どちらかといえば，している」と回答した児童の成績には，国語と算数ともに正の相関が見られた。
つまり「家の人と学校での出来事について話をしている子は，成績がいい」。